

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 19 号

平成2年3月14日発行

編集者 大野良樹

発行 三水会（北里大学
水産学部同窓会）

事務局 〒246 神奈川県横浜市
瀬谷区瀬谷5-22-1石井方
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388

元水族病理学講座助教授 渡辺 翼先生の近況

職場紹介「医学部へ移籍して」（5F・高橋明義）

北海道地区懇親会に参加して（8F・赤木秀樹）

第17回漁火祭（実行委員長 渡辺 聖）

北緯68度21分（8F・鬼塚 順）

アメリカンフットボール部OB会設立（7F・小林 昇）

平成2年3月卒業生就職先状況

Information

※田中アパートOB会のお知らせ

※平成元年度総会の開催について

※会社説明会の開催について

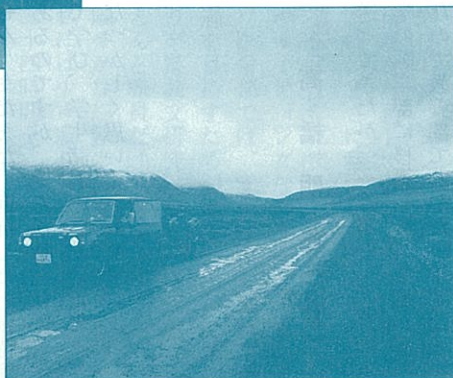
※三水会セミナーの開催について

※通信販売のお知らせ



北海道地区懇親会（2月17日）

北極圏にて（8F・鬼塚 順）



渡辺 翼先生の近況

日本大学農獣医学部農獣医学科助教授

渡辺 翼

昭和四十九年から五十七年まで、水族病理学研究室で、小林先生、厚田先生とともに水産学部の建設に従事した後、日本大学農獣医学部獣医学科に移り、魚病学研究室をつくって八年を経過いたしました。たった一人の研究室ですので、ヒマがなく御無沙汰いたしておりますが、春秋の学会では先生方と旧交を温めてお



〈シアトルにて〉

ります。また、三回生の長谷川一敏山口養魚場夏刈分場長には、教育研究に必要な魚の提供を受けているだけでなく、私の研究室の学生も公私ともにずいぶんお世話になっております。

この八年間の間に、日本の産業構造が革命的な変化をとげ、世界一豊かな国になってしまいました。

水産物も世界中から集ってくるようになり、今のグルメブームに一役買っています。長い事日本人に良質で安価な動物性蛋白質を提供する事が使命と考えてきた者にとって、とまどうばかりの昨今です。大学生の意識も急激に変化しているように見えます。多くの若者が海外旅行の体験を持ち、日本という国を客観的に見られるようになった事は素晴らしい事です。就職選びも、給料が多くて休みの多い会社というよりも、生き甲斐のある仕事を求めるようになってきたようです。同時に、学生

の言動にも経済大国の傲慢さを感じて、ゾッ、とする事もあります。円高のおかげで私もしばしば海外旅行に行けるようになりましたが、旅先で見かける日本人旅行者、特に団体の若いお嬢さん達の傍若無人にはマユをしかめたくくなります。現地の人には、そういう所に日本人の尊大さを感じているようです。

昨年(平成元年)の夏から秋にかけて、約三カ月間、病める大国アメリカ西海岸の北のはずれにあるシアトルという町に滞在して、魚病ウイルスの研究をしてきました。御存知の方も多いと思いますが、シアトルは海と山に囲まれた美しい都会です。日本との経済交流がさかんなため、親日家も多く、日本人留学生や日系企業の滞在員が多数おります。他のアメリカの大都会とは違って、安全でシーフードも美味しく、我々日本

職場紹介

「医学部へ移籍して」

永らく三陸の澄みきった空の下で青い海を望みつつ、時には野性動物と触合いながら学生・研究生活を

人にとって最も住みやすい所です。最近、海苔の養殖も行われるようになり、お寿司もよいものが食べられます。三カ月間美味しいものを食べすぎて太ってしまい、現在減量中です。写真は、シアトルの近くのカスケード山脈へハイキングに行った時のものです。

最近、老眼が進んで細かい仕事ができなくなってきました。好きだった電子顕微鏡もここ二年ぐらいわっていません。細かい文字の論文も読むのが億劫になり、何事に対しても大雑把になってきたような気がします。四十七歳という年齢を感じずる事も多くなりました。現在は、老境に入るための準備期間かも知れません。まだまだ、抵抗したい気持はあるのですが、そんな時、北里大学で学び、学生諸君とさわいだ日々がなつかしく思い出されます。

高橋明義(5F)

送ってきたが、一昨年の十一月に本学の医学部に移籍した。故郷が釜石なので教養部で暮した一年間などを

差引いても、これまでの大半の期間を雑菌の少ない岩手県で過したことになる。そのことが遠因だと信じているが、移籍直後に相模原のウイルスに侵されてしまった。高熱を出し意識は朦朧、喉が塞がり声は出ない。自転車を駆りよたよたと本学耳鼻咽喉科に飛込んだところ、扁桃周囲膿瘍という病名をいただき着任早々一週間ばかり北里大学病院に入院してしまつた。我が身に迫つた危機を打開してくれた医学を頼もしく思い、また奉職している本学の有難さを改めて知つた。



教養部にいた頃の私たち水産学部
〈新たに建設された教養図書館を背にしている。右はしが筆者〉

の学生にとって医学部はせいぜいドミトリの食堂あるいは病院の職員食堂でお世話になる程度であり、縁遠い世界であると感じていたように思う。医学部の学生は他学部の学生とは別の棟で受講しており、彼らとの交流が限られていたのがその原因であろう。現在は学生実験などで医学部の学生に接する機会がある。そこで気がついたのだが、彼らは水産学部の学生と較べるとかなり上品である。白衣の落書きは極めて少なく、洗浄瓶の水を掛け合うこともない。真剣に医学を志していることが分る。翻つて、卒業後の資格取得とは無縁な水産学部学生の大部分で野生的な学生生活もまた貴重な特質である。

私は分子生物学教室に属しているが、この「教室」は水産学部の講座とは異なる。各教室は教授以下で構成されている。講義や学生実験など教育活動に關して「教室」は講座と同様な役割を果す。しかし、研究単位は従来の講座の枠組みではなく、生物化学系、生物物理系、R I系、実験動物系など十個の研究系として区分されている。各研究系の全ての実験室は共同利用室であり、研究者は必要や目的に応じてあらゆる実験系のいかなる施設機器をも使用可能である。各人は使用する研究系に対して予算を申請することになる。私自身はここに挙げた四つの研究系を利用しながら研究を進めている。これは医学部は基礎研究者と臨床医の共同利用施設であるという理念に基づいており、専門分野の異なる研究者が柔軟に交流可能な制度となっている。

三陸では魚類のホルモンをタンパク質化学的手法により解析してきた。医学部では哺乳類の免疫に關係する血清タンパク質の構造解析に取組んでいる。これは巨大分子であり、かつ微量成分であるため遺伝子工学の力を借りる必要がある。最初の一年間はこれまでに蓄積してきた手法を

駆使して、タンパクの面から基礎的情報を集積してきた。現在はそれを基に、まさに私にとって未知の分野、遺伝子工学に突入した所であり、エキサイティングな日々を送っている。医学部では、学生は国家試験の通過を目指すため、水産学部とは異なり卒業論文研究はなく、研究室はほとんど職員だけで構成されている。賑やかな三陸の研究室で育つてきた私には少々寂しい気もするが、反面二十四時間全てを自分自身の活動に集中させ得る利点がある。未知の分野に学ぶ事ができ、しかも時間がたっぷりある今を、正に飛躍の時と考えている。

「北海道地区懇親会に参加して」

赤木 秀樹 (8F)

こんにちは。私は五十八年卒業の赤木です。早いもので、卒業してもう八年を迎えます。

先日、同窓生数人が集まつた折、この北海道にも、母校水産学部出身者が七〇名を越えるのに、同窓会がないのは残念ではないか。お互に忙

しい年代ではあるが、せめて年に一度か二度は集まり旧交を温めたいものだ。と、話がもち上がり、本部のご協力も得て、皆様にご案内したところ、かくも多数のご賛同をいただき、去る二月十七日、札幌市内のペンション雪輪(せつりん)で、第一

回三水会北海道地区会員連絡会、及び、アサヒビール百景園での親睦会を開催いたしました。

第一回目でもあり、広大な北海道という地域性もあり、連絡面など数々の不備もありましたが、卒業生三〇名、そして家族も含め三六名という人数にお集まりいただきました。連絡会においては、来年以後も、年に一度はこうして集まろう。また、札幌だけでなく各地でも開催しよう、数々の意見が出され、今後の相互の交流を深め、連絡をスムーズにする為に、道内を五つのブロックに分けた連絡網を作り、それぞれ、水



鳥純雄さん(3A)、太田浩司さん(6F)、日野敬市さん(1F)、奥田俊一さん(6F)、宮崎義弘さん(7F)を代表とし、事務局を、千歳で開業されている斉藤博司先生にお引き受けいただき、通信係として武田明美さん(7A)を加えた組織作りをしました。

今後は、北海道支部設立に向け、大切に育てていきたいと思えます。本部よりご出席いただきました、長谷川さん、石井さん、中村さんも、我々の熱い心と北海道の幸を、十分に満喫していただけたことと思えます。



今回お集まりの方々を見ますと、良きパパそして、働き盛りの青年。水産学部卒業生で、水産関係に付かれています方が、多くを占めていました。

こうして集まってみますと、思われるのは、あのなつかしい三陸時代。同じ校舎で学び、同じ教授のゼミに出席した仲間であるという想いが、心からの親しみと、懐しさを呼びおこします。そんな一人一人が集う時間に無限の意義を見い出したのであります。

出張の折、旅行の折には連絡を取り合い、是非会おう、また来年もこうして集まろう、皆がそんな気持ちで限られた時間を惜しんで思い出話に話を咲かせ、近況を語り、飲み明かした一夜でした。

聞けば、三水会もこの四月で十五

「第十七回漁火祭」

十月二十一、二十二日の両日、第十七回漁火祭を開催いたしました。今年には新しい漁火祭の歴史を作り出

回生を仲間として迎え入れるまでになるとのことです。

ますますの母校の発展を祈ると共に、この同窓会支部も盛大となることを願うものであります。

はなはだ簡単ではありますが、これを北海道地区連絡会、及び、親睦会の報告といたします。

そして、大変お世話になりましたペンション雪輪の御夫妻、多大なるご協力をいただきました本部の皆様、いろいろとお力をいただきました各位に、この誌面をお借りしましてお礼申し上げます。

皆様の盛々のご健勝と、再会を願って……

実行委員長 渡辺 聖

そうということで、文化会、体育会、執行委員会が共に協力し準備を進めてきました。



二十一、二十二日は両日とも好天に恵まれ、二十一日には毎年恒例の大漁踊りを釜石市、大船渡市、三陸町で行い、地元の方々の暖かい声援を受けました。二十二日には児玉正昭教授による「麻痺性貝毒について」という講演が行われ、地元漁業関係者の好評を得ることができました。我々の目標の一つである、地元の方々との交流という点においても満足いくものだったと思います。また模擬店や展示を行う団体も増え、賑やかな祭となりました。体育館ではオープン卓球大会やオープンバドミントン大会が開かれ、スポーツの秋にふさわしく参加した人達は爽やかな汗を流していました。

「北緯六八度二一分」

なぜ、北極圏だったのか、それもロスアンゼルスからクルマで延々カナダ・ノースウエストテリトリ、イヌヴィックまで、往復二万キロである。

さらに今年は数年ぶりに後夜祭を行い、強風のためファイヤーストームはできなかったもののクラブ対抗ガマン大会、Me美人コンテスト、軽音楽部有志によるバンド演奏などの企画で、大いに盛り上がり、漁火祭を終了することができました。

また、我々水産学部の大漁踊りは相模原キャンパスの北里祭に招かれ勇壮な踊りを披露し、あの大漁踊りを一目見ようと集まった人でグラウンドは埋めつくされました。

数年来、漁火祭は規模縮小の一端を辿ってきましたが、今年の漁火祭を機に来年はさらに素晴らしいものを創りあげて行きたいと思っています。

鬼塚 順 (8F)

僕は北が好きだ。
「岩手だぞ。イワナは釣れるし、モーターサイクルには最高だぜよ」というある卒業生の圧倒的な言葉につられて、やもたてもいられず三



陸の人となった。三陸が終わると、南アメリカ大陸の南のはじ、パタゴニアを目指した。こいつは北じゃないけれど、空気が澄んで冷たいことには変わらない。結局この時はアンデスまでしか行けなかったが、次は北極圏しかなかった。

自分のクルマで行きたかった。それにはずいぶん金がいる。仕方がないので半分仕事にしてスポンサーも付けた。そのためにトライアルバイク三台をトレーラーに載せて引っぱるはめになった。こうした準備も想像以上に大変でかつおもしろいのだが、ここには書く余裕がない。

イヌヴィックは北緯六八度二一分、北極圏は北緯六六度三分以北だからどれくらい北の外れか分かるというものだ。

世界でも有数のマッケンジーデルタの東に位置し、道もここで終わる。アラスカを見ても、一般の車が入れぬ最も北である。

最後のストレッチはデンプスタハイウェイと呼ばれる七五〇キロの砂利道である。森の国カナダも、ここまで来ると低灌木に苔の大地ツンドラが、うねるように地平線まで続く。三六四キロ走るとガソリンが買えるが、それまでは何もない。



僕らは道路脇のキャンプグラウンドでテントを張る。季節は九月の初め、毎晩のようにオーロラが空を揺らめく。日によってはそいつが虹色に光り出すから、呆然と手に汗握ってしまうのだ。

七五〇キロ走ると、クルマ、トレイラーそしてバイクは泥の塊のようになつた。それでも、いや、だからこそ、イヌヴィックの街に入ったときは嬉しかった。しかも、ちょっと声が出るほど驚いてしまった。家々がすべてパステルカラーに塗分けられていたのである。それまで人工物のない、淡い自然の色の中を走って来たものだからワツという感じだったのだ。聞けば、一カ月近く続く冬の夜を想定して、少しでも街を明るくしているのだと言う。

ロスアンゼルスから一カ月で約一万キロ。LAは真夏の砂漠だった。走り出したその先には、啞然とするくらいの距離と時間があった。日本から運んだクルマにトレイラーを付けると殆どスピードが出ない。ヨセミテに登る坂では時速四〇キロがやっとだった。果たしてそんなところまで行き着けるのだろうかと思つた。

イヌヴィックには後発のメンバーが飛行機で直接乗り込んで来る。そ

の日にも間に合った。オンタイムだったのだ。

イヌヴィックからはさらに、ボートにバイクを載せマッケンジー川を下つた。目指すは北極海。しかし四日目、風波、そして雪が強烈になり、

イヌイットのハンティングキャンプに逃げ込んだ。このときのエピソードがまた限らないのだが、そろそろ紙数も尽きた。

結局、僕にとっての北極圏は三陸の延長だったのかもしれない。

「アメリカンフットボール部OB会設立」

小林 昇（7F）

平成元年八月二十七日（日）、新宿のホテルサンルート東京に於いて「北里大学水産学部体育会アメリカンフットボール部OB会」の設立総会が開催されました。

一期生が創部されて以来今日まで十四期約百名のOBを数え、数年前よりOB会設立の声があがっておりました。創部当時まだまだマイナーであったアメリカンフットボールも今ではだいたいメジャーになり、テレビでも放送されるようになってまいりました。当時はまだ東北には学生リーグも無く対外試合も少ない状態でしたが、現在は学生連盟も設立され、春のオープン戦、秋のリーグ戦

でそれぞれ活躍しています。その様な中、OB会設立の声も高まり、設立総会が開催できたことはたいへん喜ばしく、又たのもしく感じられます。

さて当日はあいにくの台風の中、一期生から十三期生まで遠くは関西上越方面からも総勢二十余名の出席者があり、又三水会からも役員の方二名に出席いただきました。当日残念ながら欠席の方々からもOB会設立を応援する旨のお手紙、お電話も多数いただきました。総会ではOB会設立の主旨説明から行なわれ、現役学生に対し技術的指導（OBの古い頭では指導になるかどうか……）

及び経済的援助（現役学生にはこれが一番かと思われず）を行い、アメリカンフットボール部の発展向上に援助すると共に、会員相互の親睦を図るという目的が全員一致で決議されました。

又会則も承認され役員も会長以下次のように決定しました。

会長 飯島 優 (五一年卒)

副会長 権谷 優博 (五三年卒)

〃 佐藤 伊豆男 (五六年卒)

事務局長 小林 昇 (五七年卒)

会計 高尾 勝幸 (五九年卒)

理事 各卒業年次一名

監査役 石崎 由紀夫 (五二年卒)

〃 林 孝 (五五年卒)

以上のメンバーで運営していくことになりました。

総会の後立食パーティーが和気あいあいの雰囲気の中で行なわれました。その日初めて顔を合わせるという人も多いのですが、同じ釜の飯を食った仲と言うのでしょうか、何年来的の付き合ひの様に大声で話しを笑い、学生時代のコンパの様にビールや水割りをついでつがれて、一度に学生時代に戻った気持ちになりました。

会長のひと声で二次会にも繰り出し、今度は鮎屋の二階の座敷での宴

会になり、学生時代の思い出話に花が咲きました。

今年の夏には二回目の総会を開こうという声も出て今から準備に入っています。

今後の活動計画としては、三月中

に会員全員に規約と役員名簿を送付し、会費の振込を依頼する予定にしています。又、会員名簿も作製する予定にしていますので三月中に連絡が届かなかつたOBの方は事務局まで連絡して下さい。

連絡先
〒一六七

東京都杉並区本天沼二一十九一九

北里大学水産学部体育会アメリカンフットボール部OB会事務局

小林方

平成2年3月卒業生就職先
(産業別就職者状況)

区分	学科	就 職 者 数		
		増 殖	食 品	合 計
農・林・水産業		7	2	9
建設業		1	0	1
製 造 業	食 料 品	18	36	54
	織 維 工 業	0	0	0
	衣 服 ・ そ の 他	0	0	0
	印 刷 ・ 出 版 等	0	0	0
	化 学 工 業	7	6	13
	一 般 機 械 器 具	1	0	1
	電 機 機 械 器 具	0	0	0
	精 密 機 械 器 具	0	0	0
	そ の 他	4	1	5
電機・ガス・水道		0	0	0
運輸・通信業		0	3	3
卸売・小売産業		19	12	31
金融・保険		1	0	1
不動産業		0	0	0
サ ー ビ ス	医 療 保 険 業	3	0	3
	教 育	1	0	1
	非 営 利 的 団 体	0	0	0
	そ の 他	3	3	6
公 務	国 家 公 務 員	1	0	1
	地 方 公 務 員	7	4	11
上記以外		0	0	0
合 計		73	67	140

(単位：人)

事務局よりのお知らせ

平成元年度総会の開催について

下記により元年度総会を開催いたします。(会員は傍聴できます。)

開催日時：平成2年5月20日(日)
11:00～

開催場所：北里大学薬学部E号館
(白金校舎内)
3階 301会議室

協議事項：・元年度事業報告・決算
・2年度事業計画・予算
・その他

三水会セミナーの開催について

平成2年度より新企画として、水産を問わず色々なテーマによるセミナー形式の会を開催して参ります。

今回、第1回目として「鮭鱒流通の問題点」をテーマとし、国内産銀鮭と輸入鮭鱒との流通面での問題点について、水産学部小林教授を迎え開催いたします。関連職域の卒業生をはじめ興味のある方は是非ご参加ください。

開催日時：平成2年4月15日(日)
10:00～15:00

開催場所：北里本館2館大会議室
参加費：3,000円(昼食込み)

お問い合わせは三水会事務局まで

田中アパートOB会のお知らせ

田中アパートOBの有志の方からOB会開催について連絡がありましたのでお知らせいたします。

開催日：平成2年6月3日(日)
開催場所等については、4月下旬頃に決定されます。

詳細については下記へお問い合わせください。

代表幹事 手塚 弘之(5F)
☎ 02875-4-0670

水産学部よりのお知らせ

会社説明会の開催について

例年開催しております、水産学部在学生を対象とした会社説明会を、三陸校舎において開催いたします。来年度求人希望されている企業に勤務されている会員の方で参加を希望される方は、人事担当者にご相談の上、水産学部学生課までご連絡ください。
なお、説明会は、4～7月にかけて毎月1回開催する予定です。

「三陸の味」通信販売のお知らせ

鹿の森ハム工房

手作り
薫製

鹿肉

・美しいさんりくのリア
ス海岸を望む当社直営

高原牧場では、ほとんど野生と同じ状態で鹿を飼育しています。自然のエネルギーを蓄えた鹿肉は“ワイルド”で、ほとんど脂肪がないため“ヘルシー”な肉質が特徴です。

“鹿の森ハム工房”では、厳選した鹿肉を独自の製法と、白樺のチップでじっくりスモークして「薫製品」を商品化しました。健康を気づかう方やグルメ派の方に、きっとご満足いただけると思います。ぜひ、ご賞味ください。
申込方法：同封の申込書により、三水会事務局までお申込みください。

代金支払：商品に郵便振替用紙を同封いたします。

セット	価格	内 容
A	2,500円	薫製鹿肉(ロースまたはモモ)1個
B	3,000円	1個・鹿肉ウインナー1パック
C	4,500円	“(モモ)2個
D	5,000円	“(ロース、モモ組み合わせ)2個
E	8,000円	“3個・鹿肉ウインナー2パック

※上記価格には、消費税、送料は含まれておりません。
※ご希望に応じて、セット内容を組み替えてお届けすることもできます。(豚肉製品との組合せもあります)
※手作りですので納品に時間がかかることがあります。



海・山・YOU・遊

三陸町ふるさと振興株式会社

〒022-01 岩手県気仙郡三陸町越喜来字所通21番地18
TEL 0192(44)3241・2883 FAX 0192(44)2883

「三陸町産 銀鮭 三水会オリジナルギフト」

越喜来湾でイワシを使わず、のびのびと育てた健康な銀鮭を3枚におろし、ビチットシートで包み、マイナス40度C以下で凍結した特注品です。

お刺身はもちろん、バター焼き、ムニエル、フライ等、用途も広く便利です。
味、品質の良さは小林先生のおすみ付、ぜひ、お申し込みください。

価 格：5,000円(送料込み)

製 品：銀鮭3枚おろし 1尾分(約1.8kg) スチロール包装(保冷ジュエルアイス入り)

発 送：平成2年8月1日～13日

申込み：同封の申込書により、三水会事務局までお申込みください。